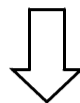


平成30年度「学校評価計画」(徳島県立城南高等学校)

本校の教育目標

本校の歴史と伝統を踏まえながら、時代や社会の変化に対応した新たな発展をめざして特色ある教育を展開する。その中で、人権を尊重し、確かな学力と豊かな心を身につけ、自信と誇りを持って夢や理想を実現し、社会に貢献できる生徒を育成する。



本校の重点目標

- 1 人権教育の充実
- 2 学力向上の推進
- 3 生徒指導の充実
- 4 特別活動の充実
- 5 進路指導の充実
- 6 保護者等との連携強化
- 7 特色ある教育活動の推進

重点課題	具体的な対策とその評価指標 (⇒印)
教員の教科指導力を高め、わかりやすく生徒が興味・関心を持てる授業を実践する。	各学期に授業参観週間を設け同一教科の教員による授業見学、管理職による年間2回の授業観察などを実施し、教科指導力の向上を図る。 ⇒生徒による授業評価の授業満足度 80%以上
家庭学習の重要性を理解させ、自ら学ぶ姿勢を育成し、学習習慣の確立に努める。	「自主自立ノート」や面談などを利用して生徒に家庭学習の重要性を認識させる。学習時間調査を定期的実施し、生徒の学習の状況を教師間で把握する。各教科で週末課題や宿題を課すなどして学習習慣の定着を図る。 ⇒平均家庭学習時間(週): 1年 16時間以上, 2年 16時間以上, 3年 21時間以上
遅刻防止に努め、保護者と連携して生活改善を図る。	遅刻防止については、担任による常時指導(家庭への連絡を含む)とともに、遅刻常習生徒について10回の時点で生徒指導課による生活習慣指導を行い、15回で保護者を召喚し、生徒本人を交えて、担任や学年主任、生徒指導課長で生活改善について話し合う。 ⇒遅刻率 1%以内, 遅刻ゼロの日年間 7日以上
特別活動・部活動の活性化と、教育相談活動の取り組みを通して、学校生活の充実を図る。	①学校行事について生徒会と意見交換を行い、より良い行事内容になるように努める。 ⇒生徒による学校行事満足度 80%以上 ②部活動は顧問の専門性を配慮して配置し、日々の指導において現場での指導を充実させる。 ⇒生徒による部活動評価の部活動満足度 80%以上 ③スクールカウンセラー制度を利用するなど、支援を要する生徒への支援体制を充実させ、生徒の相談に随時対応できるよう、教育相談室を整備し、昼休みに開放する。 ⇒教育相談室を整備し生徒への開放, 年間 100日以上
特色ある学校づくりの一環としてスーパーサイエンスハイスクールの活動を積極的に行い、成果を生徒の進路に生かすとともに、県下への普及を図る。	①スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取組により、生徒の理科や数学への興味や関心を深め、理科や数学の基礎的な学力を定着させるとともに、発展的な応用力も身に付けさせる。 ⇒SSHの取組により理科や数学の興味・関心が深まり、その理解が深められたと自己評価する生徒 70%以上 ②科学部の自主的研究活動を促し、各種科学賞での入賞を図る。 ⇒各種科学賞での入選数 7以上, 全国大会への出品 2以上 ③活動成果の県下への普及を図る。 ⇒小学生及び中学生対象実験教室の実施 3回以上

(参考)

- 1 教育活動全般を点検し本校の課題を明らかにするとともに、特に今年度重点的に取り組むべき課題を絞り込み、それらの課題の改善に向け、平成30年度「学校評価計画」を作成し、この評価計画に従って教育活動を展開します。
また、年度末には取り組みについての評価を行い、その評価結果を来年度以降の教育活動に生かしてまいります。
- 2 学校評価のねらいは、次の2点です。
 - ①学校が、教職員の幅広い参画の下に、自校の現状と問題点を総合的に把握し、目標を明確化した上で、それらを踏まえつつ個々の活動を展開する。このことにより、学校の組織力を高め、学校活動の改善に向けた取り組みを組織全体として主体的に推し進める。
 - ②学校が、教育活動を展開する上で、生徒や保護者等の意見を汲み取り、反映させていくとともに、学校の教育活動の状況について、的確に示していくことによって、学校としての説明責任を果たしつつ、相互の理解を深め連携を促進する。